



水道事業

菊地 忍

**問** 近年、日本各地で「水道管破裂」が相次ぐなど、耐用年数を超えた配水管の入れ替えが急務となっている。日本はこれから世界史上類を見ないスピードで「高齢化」「人口減少」社会がやって来る。水道収入も減り、このままでは水道事業財政が大変厳しい状況になっていくことが予想される中、国会では水道法の改正が行われ、「水道事業の民営化」でこの国難を乗り切ろうとしている動きもあるが、なかなか課題も多く、海外においては、民営化後に料金が倍になり、水紛争まで起きている国もあると報道されている。岩沼市の「水道事業の未来について」伺う。

**配水管は何%あるのか。**  
**水道事業所長** 全体の41%で、41・7キロメートルあります。  
**問** 更新計画を伺う。

**水道事業所長** 岩沼市水道事業アセットマネジメントを策定し、計画的に更新を行っています。  
**問** 人口減少社会を迎え、家庭用水道料金収入の減少が予想されるが、今後の水需要の見通しを伺う。

**水道事業所長** 平成37年度には給水人口が4万2471人、一日平均配水量が1万4093立方メートルを予想しており現在の約2%減を見込んでいます。  
**コンセッション方式問う**

**市長** 市の水道事業は、昭和28年に創設され30年から給水を開始しています。以後、安定供給に務めてきました。しかし、これからは人口減少を迎え、料金収入の減も予想されます。市としてはこれらを想定し、平成28年に岩沼市水道事業ビジョンを策定し対策を進めています。

**問** 施設の運営権を民間に売却し、民間による施設の効率的な運営を期待する「コンセッション方式」について、市の考えを伺う。

**市長** 岩沼市にとってプラスになるのかをしっかりと調査し、研究していきたいと思えます。

**問** 現在、耐用年数を超えている

◎その他の一般質問  
 ・奨学金返還支援制度



学校プールの今後のあり方

櫻井 隆

**問** 各学校のプールの耐用年数について伺う。

**教育次長** 50年から60年と考えます。

**問** 市内8校のプールで最も新しいのが西中学校で31年経過、他は40年以上経過しているが、最も早く建て替えるべきプールのある学校はどこか伺う。

**教育次長** 一番古いプールは昭和42年に造った北中学校です。

**問** 新しく造り替えた場合の建設費用を伺う。

**教育次長** 25メートル掛ける16メートルで約1億5000万円、撤去費用に1000万円の費用がかかるかと想定しています。

**問** 新しく建設する予定はあるのか伺う。

**教育次長** メンテナンスをしながら使う考えです。

学校プール選択肢は4点

**問** 将来考えられる、岩沼市の選択肢は4点ある。1点目は、現在の1校1プールを今後も使い続ける形だが、天候に左右されやすく

水泳の授業が保証されない。また、施設ライフサイクルコストが高いという欠点がある。

2点目は、拠点屋内プールを新たに建設する。利点としては、専門的な水泳指導が受けられ、安全性が確保される。しかしながら、新規事業になるので、一定の期間と労力が必要となる。

3点目は、民間プールの活用だが、市内には該当する民間プールが無い。

4点目は、公共プールの利用でありコストは最も低いが、現在利用している市民の利用時間の縮小等の問題もあり、どれを選択しても一長一短がある。

以上の点から、今後の学校プールのあり方について教育長、市長の見解を伺う。

**教育長** 今のプールを大事にしながら、どういう方向性があるのか検討し、調査研究していきます。

**市長** 今後も教育委員会といろいろな情報を共有しながら児童・生徒の環境整備に取り組んでいきます。